保育者の子どもの「体験」評価に関する研究
―自由記述の質的検討―

西　川　晶　子

【はじめに】

平成２２年１０月に発表された青少年教育振興機構による、「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」では、幼少期の体験と成人後の成功や資質との関係について興味深いデータがあきらかにされた。ひとつには、子ども時代に、自然体験や友達との体験、地域での体験が多い成人ほど、「意欲、関心」「規範意識」「人間関係能力」が高いという結果である。また、子ども時代の「体験」（自然体験　友達との遊び　家族行事　動植物とのかかわり）と、成人後のさまざまな資質（自尊感情　共生感　意欲関心　規範意識　職業意識　人間関係能力　文化的作法、教養）との関連を、体験の年代ごとに明らかにしており、それによれば、小学校低学年までの、体験（友達との遊び　動植物とのかかわり）が成人後の資質（自尊感情　共生感　意欲関心　規範意識　人間関係能力　文化的作法、教養）に大きくかかわり、小学校高学年から中学生までの体験（地域活動　家族行事　家事手伝い）が成人後の資質と大きくかかわっていることがあきらかにされた。

就学前の子どもたちが１日の大半をすごす保育園は、子どもたちがその後の未来を作り出すための力を養う貴重な体験の場であり、素朴な感情として大人たちは子どもに「いい体験」をして欲しいと願っている。子どもは日々体験のなかから学び、成長していくからである。しかしながら子どもにとって「よい体験」あるいは「悪い体験」とはどのようなものと捉えられているのだろうか？

子どもにとっての「体験」の評価に関する研究はまだまだ少ない。

保育者は日々の保育のなかで子どもと「体験」を共有し、あるときには「体験」を方向付けたり、参与したり、介入したり、観察している存在だといえるのではないだろうか。またその「体験」の「評価」から次の活動や援助への方向を得ているのではないだろうか？

本稿では子どもたちの生活にとって重要な伴走者といえる保育者にとって子どもの「いい体験」とはどのようなもので「よくない体験」とはどのようなものかということを、あきらかにすることを目的としている。またそのような「評価」について何を手がかりにしているか、ということをあわせてあきらかにすることを目的としている。

研究方法については、研究者からの一方的な視点をさけ、できるだけ自由な記述から保育者の評価する「いい体験」「よくない体験」を浮かび上がらせるために、質問紙の自由記述の質的な分析という研究方法を用いている。

また、本稿は日本発達心理学会第21回大会抄録に掲載された論文に大幅に加筆修正したものであることをお断りしておく。

【方法】

2009年9月から11月にかけて長野県南部の公立保育園108園に対して質問紙を送付した。（資料編Ｉ参照）年中クラスの担任保育士を中心に回答を依頼した。50通の回答を得た（回答率４６％）

保育者の子どもの「体験」の評価について以下の質問について自由記述で回答をもとめた。

【質問項目】

Q1　あなたは、どのような体験が子どもにとって「いい体験」だと思いますか？（以下Q1「いい体験」とする）

Q2　あなたは、子どもにとって「よくない体験」とはどのような体験だと思いますか？（以下Q2「よくない体験」とする）

Q3　あなたは、子どもが「いい体験」をしているということをどのようにして判断していますか？（以下Q3「判断」とする）

【分析方法】

質問に対する自由記述から、コーディングをおこなった。記述された文章から、研究対象として注目すべき語を抽出した。抽出された語について意味的にまとまりのあるグループに分け、命名しコード名をつけて、分類した。

次に各コード名の全体のデータ内での出現回数を検討した。

コーディングに際しては筆者のほかに1名の研究者に協力を得、コーディングの妥当性を確認した。またコード名と保育者の属性との関連を検討した。

【結果】

Q1　「いい体験」

（有効回答５０出現頻度５回以上）

Table1

コード名	出現回数	コード名	出現回数
友達とのかかわり人間関係	18	泣いたり　怒ったり	11
自然体験	17	困難　挑戦　達成	10
肯定感　認められる	14	身体いっぱい	9
何事もいい体験	13	五感	7
意思　自発性	12	収穫　食べる	6
栽培　飼育	12	砂　土　水	5
嬉しい　楽しい	12	非日常体験	5

Q2　「よくない体験」

（有効回答５０出現頻度５回以上）

Table2

コード名	出現回数
思いを受けとめられない	18
無理な押し付け	12
暴力にさらされる	8
外傷体験	5
テレビ　ゲーム	5
制限　不自由	5

Q3　「判断」

（有効回答５０出現頻度５回以上）

Table3

コード名	出現回数	コード名	出現回数
いい表情	29	経験が次につながる	8
またやろう　もう終わり？	16	工夫　発展	7
自発性　意欲	13	トラブル解決	7
友達とコミュニケーション	11	気づき　感動	6
笑顔	9	動植物	5

【考察】抽出されたコードを回答例を引きながら考察した。

Q1　「いい体験」

友達とのかかわり人間関係

佐伯（2007）※１は、近年の子育ての場における共感性の欠如といった危機的な状況において共感性の育成こそが保育や教育の世界で中心に居続けなけ

ればならない、と主張しているが、保育者が子どもの「いい体験」として、「友達とのかかわり人間関係」を挙げているのには、人間関係が希薄になったといわれる時代の要請を感じ取っているのかもしれない。

またこのコードにおいては、友達と楽しく遊ぶという並列の関わりと、お年寄りや発達に偏りのある子、異年齢の異なる人間関係のなかで、互いに気遣う、という多様な人々との関わりというさらに２つの下位分類があるとおもわれた。

回答例（質問紙からの抜粋　原文ママ以下同様）

- ***異年齢での交流体験　集団行動のしにくい子やこだわりをもっている子また発達障害のある子との交流体験***
- ***弱い立場の子どもを助けたり、互いに心遣いをしあいながら活動をすすめていく***
- ***ふれあい保育も含めお年寄りとの交流はとても良いと感じます***
- ***いろんな人いろいろな友達に触れたり接したり一緒に遊び、多くの刺激を受けたり経験すること***
- ***小さいうちは遊ぶことが仕事で遊びの中では人との関わりやルールなどいろんなことを感じることができると思います***
- ***友達とかかわって遊びあうなかでいろいろな体験をし友達からの刺激を受ける***

自然体験

幼少期の自然体験の重要性については異論のないところかと思うが、国立青少年教育振興機構（2010）※２によると、若い世代になるほど、自然体験が減っていること、幼少期に自然体験や友達とのかかわり、地域の行事に参加した経験の多い人ほど、やる気や生きがいを持っている人が多く、モラルや人間関係における能力が高いということが示されている。

たとえば保育室でおもちゃに関わる場合と、森という空間で、葉っぱなどの自然物と関わる、という比較で考えて見ると、たとえば、ままごと道具の場合には、台所道具に見立てられる目的で作られており、そこでの遊びの展開はおおよそ限定される。しかし、森では子どもは葉っぱという自然物をお皿に見立てることもできるし、小さな虫のベッドに見立てることもできるだろう。つぶして青い汁を集めることもできれば、その匂い手触りを楽しむことができる。風や光なども無限の関わりを可能にしてくれる。

目的をもって作られた人工物とのかかわりと、自然体験では、体験の質と広がりに格段の差がある。

また**自然体験**のコードは、**身体いっぱい**コードとの対で出現することが多かった（**身体いっぱい**コード９回出現中６回が**自然体験**と対で回答された）自然のなかでは、おのずと身体をいっぱい使う行動が誘発されるのことが、回答からも伺える。

回答例

- ***自然の中で思い切り体をつかって遊ぶ***
- ***太陽の下水土泥等でおもいっきり遊ぶ***
- ***自然の移り変わりや季節の自然物にふれての遊び***
- ***のびのびと自然の中で子どもたちが主体となるよう体験***

肯定感　認められる

明橋（2006）※３によると　日本の中学生は国際比較からも自己評価がぬきんでて低くそのことが、不登校や非行、キレるなどの多くの問題を引き起こしており、自己肯定感を幼少期にはぐくむことがその後の人生の土台になると指摘して、著書がシリーズ化され、版を重ねている。

乳幼児期の子どもにとって、重要な大人から、ありのままの自分をみとめてもらい、肯定してもらうことによって自己評価をたかめることは、その子の世

界観を明るく照らして暖め、その後のあらゆる発達の基盤となるものであろう。

回答例からは、出来たことを認めたり、ほめたりする、という行動強化型と、愛情をかけてもらう、大事にしてもらう、といった無条件肯定型の回答があり、議論の余地があると感じる。

回答例

- ***認められ褒められる体験***
- ***親や保育士など周りの人にほめられること、認めてもらう***
- ***自分が大事にされている、愛されていると感じることのできる体験***
- ***保護者や保育士に大切にされていると感じる体験***
- ***安心できる保育者に見守られていると言う環境***
- ***自分でやったことを大人に認めてもらったり、できたことをほめてもらうことで自信がついて自尊心が高まっていくと思う。大人の愛情をもらう中で育つことで人に対し思いやりをもったりやさしい気持ちをもてるようになると思うから***
- ***抱いてもらうことなど、愛情を持って大人に接してもらうこと。よく話を聞いてもらうこと***
- ***まわりから注目されて目覚める気持ちがあると思う***

何事もいい体験

「何事もいい体験」というコードの出現は　１３回中１１回（85％）が経験年数１０年から３０年のいわゆるベテラン保育者に集中し、３年未満の経験の保育者では出現しなかった。「何事もいい体験」コードの出現に保育者の経験年数が関与していることが示唆された。

何事もいい体験である、という記述は、一見ネガティブに思える出来事のなかでも子どもはかならず何かを学び取っており、いま結果が出ないとしても、いつか実を結ぶという、子どもの発達への信頼が、そうさせるのであろう。ま

たそのような発達観が保育経験を経るなかで培われる、という今回の結果から、子どもとの多くの体験が、保育者の発達への信頼を育てる、と考えられるのではないだろうか。

回答例

- ***達成しても達成しなくてもすべてが良い体験になると思う　保育園という小さな社会の中ではあるがいろいろな人とのかかわりの中でやさしくしてもらったり、相手のことを考えたり、がまんすることくやしい思いをすること、かなしかったりうれしかったり園での生活そのものがすべて子どもにとって良い体験になっていくのだと思います***
- ***生活しているすべてが体験　生活をしていくなかで環境をつくって体験させることもあれば人的環境を体験し育っていくことも大切だとも思います。心豊かな子に育っていくために人として生きていくためにもさまざまな体験をしていく必要があると思います***
- ***幼児期の豊かな体験はきっといつか役に立つと思っています。今すぐに「いい体験だった」と結果が出るものと出ないものとがあります。***
- ***うーんと楽しかった。うーんと疲れた。うーんとお腹すいた。等々色々な経験を大切にしています。***
- ***いじめられるケンカするなど悪いと思われる事も人の痛みのわかる人になるのでは、と思います　生きていく上でどんな体験もいい体験になると思いますが、その後回りの大人がどのようなフォローをしてあげるかが大事だと思います***

意思　自発性

知識、詰め込み重視型の日本の教育システムの疲弊があきらかになっているなかでは、子どもの意思、自発性によって生起する体験は、子どもにとって真の学びがおこりうる体験として尊重すべきものであろう。保育者は日々の日課

や、行事に追われるなかで、ともすれば、子どもたちを管理したり方向づけたりと、しがちであるが、子どもたちが自由な意思や自発性を十分に発揮することを見守り、支えたり、対話のなかで発展させていくことが、結果的に子どもにとって「いい体験」といえるのではないだろうか。

回答例

- ***子どもがすこし困難なことに自分の意思で挑戦しようとしている。***
- ***子どもが自分で考え自分の手足体をつかって思いっきり活動し「あーおもしろかった～」と心から思える体験***
- ***子ども自ら判断して意欲的に挑戦して成功体験も失敗体験もできるなかで成長していくこと***
- ***保育士にやらされるのではなく、環境設定や援助、信頼できる大人に見守られ自分でやったりやったつもりによって満足できること***
- ***子どもにとっていろいろな体験をさせることは大事だと思います。あれはダメ、これはダメと芽をつぶすのではなく、危険が無い限りやらせてみることです***
- ***子どもたちが自分で考えて作ったり遊んだり考えることはとても大切だと思う***

栽培　飼育

国立青少年教育振興機構（2010）※２によれば、小学校低学年までの、「動植物とのかかわり」が共生感、意欲、関心、規範意識と関係があるということが明らかにされている。小さな命に向き合って、育んだり、時にはそれらの死に向いあうことで、子どもは他者に心を寄せたり、生命や自然の不思議に思いをはせたりするだろう。そのなかで、有限な自分の命や人生を大切にすることや、ともに力をあわせたり、分け合って生きることを学んでいくのかもしれない。

回答例

- *散歩　畑づくり　小動物の飼育*
- *畑で作物をつくり、食べる。*
- *毎週水曜日は畑の日で地域の方６～7名が参加してくださいます。野菜の育て方をひとつひとつ丁寧に教えてくれ、13楽しく活動しています*
- *動植物にふれたりすること*
- *クラスで飼育していたザリガニのメス２匹、飼育ケースのなかに後から大きなオスを同居させて。しかし翌日には２匹のメスがオスに攻撃されて死んでしまった。脱皮をみたり餌をやったり大切に育てていただけに子どもたちは残念がり子どもたちには衝撃的なことだった。皆で話し合い雨にぬれながらお墓をつくって花を飾り手をあわせた。天国から見えるように絵を描いて飾りたいという声が子どもたちからあがり、それぞれの思いのコメントを添えた素敵な絵が出来上がった。その日の報告がそれぞれの家庭であったとのことでした*

Q2　「よくない体験」

「よくない体験」では「いい体験」と比較して、記述の全体量が非常に少ないことがまず特徴としてあげられる。「いい経験」では多様な体験を想起できたが、よくない体験では記述量が減り、回答が３つのコードに集中した。

思いがうけとめられない

子どもにとって思いが受け止めてもらえないことがもっともよくない体験だという結果となった。

乳幼児期の子どもにとって存在ありのままに受け止めてもらうことが、すこやかな心や知性の発達に不可欠であるということは近代以降ではボウルビー　エリクソンと続く定説と考えられる。しかしながら近年の虐待事例の増加など、子どもの置かれている現場では、実現されるには多くの困難があることもまちが

いないだろう。保護者や親たちは、自分たちの育てられ方を背負い(それがいいものであろうと、よくないものであろうと)現実的なさまざまな制約の中で生きているからである。

そのような中でもなんとか子どもの思いをうけとめようとする。この結果からは、奮闘する保育者の姿をみることが出来るのではないだろうか

回答例

- ***自分自身をマイナス面へと考えてしまうような体験を重ねてしまうこと***
- ***自分が認められないでいること***
- ***子どもの心を無視しているもの　感情のないもの***
- ***自分自身が必要とされていないとか、大切に思われていないというような、自信をなくしてしまうような体験はさせたくないです***
- ***否定的な体験　愛されたり認められると感じられないこと***
- ***がんばったことを認められないこと・けんかなどのあとに一方的に大人に責められたり、自分の思いをきちんと受け止めてもらえないこと***

無理な押し付け

保育士が日々の日課のなかでこなさなければならないことは非常に多い。運動会などの行事のためにクラス全体をあるレベルにまでひきあげなければならない、といった状況のなかでは、子どもに対して押し付けがましくなってしまうことがあるだろう。

しかし、自発性や意欲のないところで、「やらされている体験」は子どもに何も残さないだけでなく、その取り組み自体に苦手感覚や嫌悪感を抱いてしまうことがあるかもしれない。

「子どものためだから」という大義のもとに押し付けを続けてしまうということも、多くの大人がしてしまっていることであろう。この陥りがちな罠に保育士が自覚的でいることは、非常に貴重なことだと考える。

回答例

- *保育士が理想に走るあまり子どもたちに無理を押し付ける　保育士や大人に言われるからしぶしぶやるような体験　大人の思いを優先して子どもが自由にできない　楽しめていない*
- *おしつけられ、「やりなさい」と言われてやること*
- *計画的にすすめられすぎるもの子どもの意思に沿わず、日程を組んでいってしまう突発的な行事運動プログラムなど*
- *与えられたことを苦痛を伴って行うもの　集団の中でも先に立ってやる子と後をついていく子がいる。後者のことも良く考えてやりたい。目立つ子だけが輝いているようなことではダメだと思う*
- *年中の発達として考える前に与えすぎてしまう。1対1での時間を多くとりすぎてしまう　集団への芽生えがない・子どもの発達に促したものではなく保育者の都合で日々に活動を決めたり、進めたりしてしまうこと*
- *出来てあたりまえ、と考えやる気のおきない体験を続けること　危険なもの*
- *保育士主導で子どもたちが興味を持って意欲的にできていないような体験個々の思いが受け止められないような体験*

暴力にさらされる

いうまでもなく、暴力の被害者になることは、子どもにとって「よくない体験」であろう。子どもがそのような光景を目の当たりにすること、周りの仲間や物が粗末にあつかわれることも、指摘されている。

回答例

- *見本となる大人が保育士が見本とならない言動をとる体験は良くないと思います失敗は別です。人を傷つける言葉をいったり行動は子どもの心にのこりどこかでその見本を出してしまうときがあると思います(気をつけたいですね)*
- *やはり、たたかれる、傷つくようなことを言われる。愛されない等虐待的な事*

・***大人に手をあげられたり虐待されることはこどもたちにとってとてもよくないことだと思う。***

・***親たち同士の会話のなかで悪口を聞いていたり、その様子を見ていることなどはよくないと思います。また夫婦ゲンカもよくないと思います***

・***ケンカをしているところを子どもにみせること。どなったり暴言暴力は絶対に見せるものではないと思います。***

・***周りの仲間や物を粗末に扱うこと。また同じような光景を目の当たりにすること。***

Q3　「判断」

判断では「いい表情」が過半数の回答にあり、「またやろう　もう終わり？」以下のコードを引き離した結果となった。過半数の保育者が子どもの体験を子どもの表情で判断していることがあきらかになった。

さらに興味深いことに、判断のタイミングについて、体験中の表情だけでなく、ある体験が次の活動につながったり、誘発する、といった未来への時間の流れのなかで現れてくる結果があるということである。

つまり保育者の体験評価の判断には、そのときの表情という、すぐに現れる結果だけでなく、今起きている子どもの活動が、過去の体験からつながったものだという見方、さらにそのことを期待して、現在の判断を保留して未来へ結果をゆだねる視点があるということが示された。

いい表情

いい表情では笑顔　目の輝き、という記述が目立った。また笑顔だけでなく、喜怒哀楽を十分に表現している姿にも「いい体験」をしているという判断がおこなわれている。

回答例

- *子どもの目がキラキラしているのがわかる*
- *子どもたちの表情から　始める前の不安な顔が終了した後にこやかな落ち着いた表情、笑顔に変わったとき。*
- *表情！悔しくて泣いたり、思いが伝わらず怒ったり、悲しくなったり何かに真剣に取り組んだり楽しくてうれしくて笑顔をみせたりなどそのときの一人一人の表情をよく見るようにしている*
- *子どもの顔をみてキラキラしていたら*
- *子どもの表情、意欲（笑顔）から判断します*
- *楽しい体験のときには笑顔明るい声、身体がリズミカルに動く等でいい体験をしたんだと判断します*
- *子どもが活動しているときの表情はどうだろう？笑顔で生き生きとした顔だろうか？友達との会話がはずんでいるだろうか　満足した顔で終えられただろうか。子どもたちの言葉はどうだろう？「またやりたいね」「たのしかった」「次もがんばろう」子どもの表情や言葉など、一人一人の様子をみながら判断しています*

またしよう　もうおわり？

「表情」についで、言葉による判断。楽しいといった感想のみならず、「またやろう」という意欲を示したり、保護者に自分の言葉で伝えるなど、「いい体験」は言葉に媒介されて広がっていく。「体験」を自分の言葉で語るということが「いい体験」の判断となるだけでなく、考えられるようになる、というのも、言葉の持つ力であろう。

回答例

- *子どもたちの言葉　先生またしようね　明日もやりたい　お母さんに教えてあげようっと　楽しかったー　えーもうお片づけなの？活動を終えた時の子*

どもたちの発する言葉からこの経験をしてもらってよかったと感じることは多いです。

- *良い体験楽しい体験をすると「またやろう」と保育士を誘いにくる。*
- *子ども同士で笑いあったり「楽しい」「うれしい」などの言葉が自然と口から出た時　いい体験をしたあと「またやりたい」と言ったとき*
- *子どもの表情や言葉で表現されたとき。　楽しかった　またやりたい　などの言葉が自然に聞かれたとき。*
- *自分の言葉で体験した事を話してくれたとき　その体験を通して考えられるようになったと思ったとき*
- *子どもたちの言葉はどうだろう？「またやりたいね」「たのしかった」「次もがんばろう」子どもの表情や言葉など、一人一人の様子をみながら判断しています。*

自発性　意欲

回答例

- *遊びのなかで活き活きと目を輝かせ、意欲的活動的に遊んでいるとき*
- *春夏の経験を経て秋にはより意欲的に目的をもってやり遂げる姿*
- *意欲的な態度　成長を感じられる　自ら進んで言われなくてもやろうとする*
- *失敗などでも　それを乗り越え又やろうとしているなど、「またやりたい」「次はこうしたい」と子どもが自ら体験できることを求めているときは子どもにとっていい体験をしていると思います*
- *次もやりたい！と次回への意欲を見せるとき*

経験が次につながる

子どもが未来へ自立への志向性を強くもっている、ということをよく示すコードであろう。「いい体験」は決してそれだけで終わらず、発展への可能性を

秘めている。

加藤（2009）※４は、レッジョ・エミリアでの保育実践の事例から、保育者が５歳児のなかにあらわれた興味関心を、最後には園庭に巨大な実物大の恐竜の壁画を作り上げるところまでを、発展させていく姿を、保育者とこどもたちの対話を軸に解説しているが、そこでは幼児たちが「有能な学び手」であることを再発見させてくれる、と述べている。

「いい経験」をそのときだけにとどまらせておくのではなく、子どもたちの「有能な学び手」としての能力と対話しつつ、環境をととのえていくのが保育者の大きな仕事の一つと考えてよいだろう。

回答例

- ***ひとつひとつの経験や体験が次へとつながっていく。子どもの表情や発する言葉からそう感じる。例）春夏の経験を経て秋にはより意欲的に目的をもってやり遂げる姿***
- ***散歩にいって森の中で倒れた白樺の木を見つけた。それはまるで「恐竜の骨」だったそれ以降恐竜への重いが高まり恐竜の絵を描いて「看板にする」と言ったり広告紙を折ってつなげて「恐竜」を作るなど自ら考えて意欲的に活動していた***
- ***その体験が次につながっていると感じられた時はそう思います。例】年少の時にさみしくて泣いていた体験→年中になって泣いている年少の頭をなでてあげる。　おもちゃをかしてもらってうれしかった体験→自分の使っていたオモチャを他の人に貸してあげる***
- ***後になってその子が成長した事につながっていると思われる体験***

友達とコミュニケーション

友達との横の経験、楽しんだり、喜びあう、励ましあうことはもちろん、特にトラブルであったり、異なる思いをぶつけあって、その年齢なりの接点をみつ

けようとしている、というとき、それが「いい体験」をしている、という判断が生まれている。

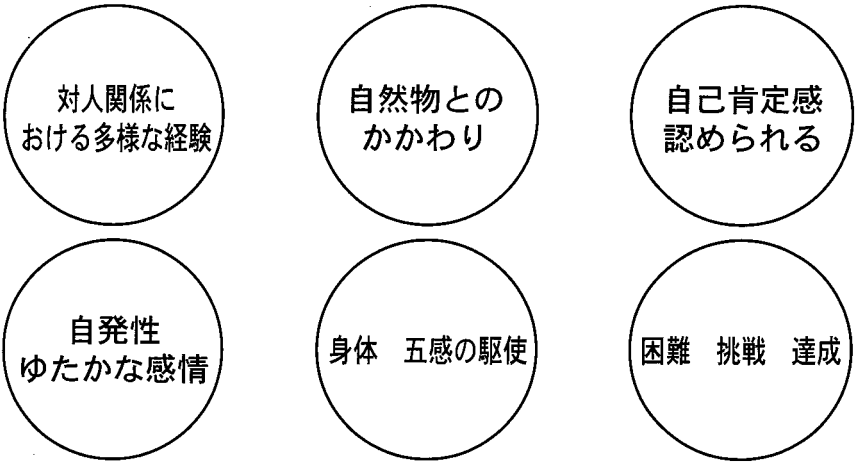
回答例

- *友達と相談したり考えながら話をしているところを見ると友達関係が深まって来たように思う。*
- *子どもたちが遊びあうなかでお互いの思いがぶつかり合いトラブルが起きたときなどすぐ保育士の助けを求めてきていた子どもたちが成長しトラブルのあいだに入りケンカの話を聞いてあげようとしたりお互いの思いを伝え合うなど仲裁をしている姿*
- *さまざまな活動の中で友達とかかわりながら喜びや悲しみやおどろき、希望等を感じているとき、失敗があったり子ども同士のトラブルがあったとしても幼児の成長に不可欠ととらえているので様子を見守ります*
- *目標にむかってがんばろうとする姿や友達と励ましあったり、達成できて喜びあっている姿。みんなで気持をそろえて一つのことをやりとげようとしている姿。子供同士でゆずりあったり、助け合ったりしながら解決しようとしている姿。*
- *登園時元気のない友達に「おれが遊んでやるから大丈夫」と声をかけている時。「どうしてもここに座りたい」と泣いている子に対してなんとか寄り合ってすわる所をつくってあげようとしている時だんご虫などの小動物を集めてじっとみている時。友達にいやだと思うことをされ、泣いている子に対してどんなことをしてはげましてあげたらいいか一生懸命考え合っている姿*

【まとめ】

1．保育者による子どもの体験評価において「いい体験」ではおおよそ以下の６つのカテゴリーがしめされた。

図１「いい体験」6つのカテゴリー

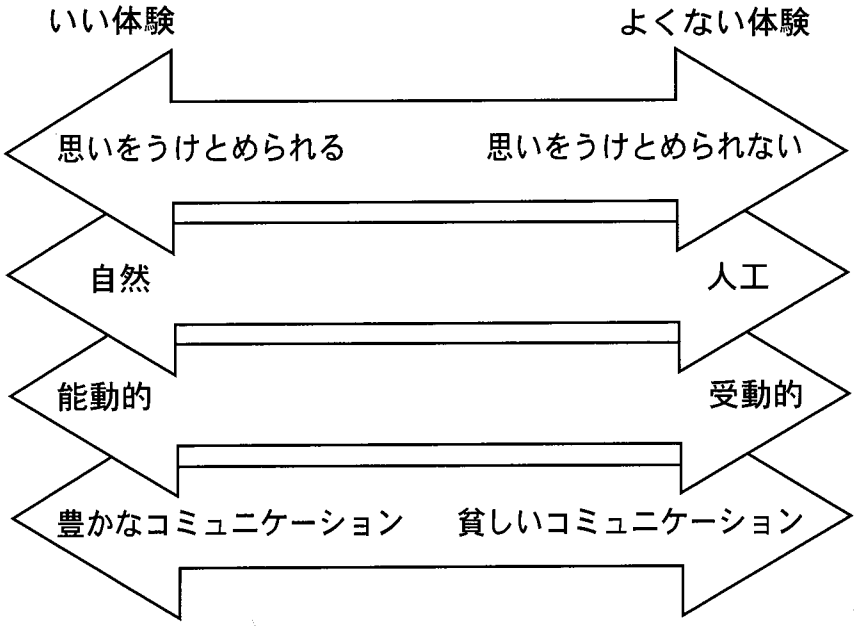


2．保育者による子どもの体験評価において「よくない体験」ではおおよそ以下の３つのカテゴリーがしめされた。

図２「よくない体験」３つのカテゴリー

3．「いい体験」と「よくない体験」を対置させると4つの軸の存在が示唆された

図３　いい体験よくない体験　4つの軸



【今後の課題】

まとめで示された9カテゴリーと4軸について、構造をよりあきらかにしたい。そのために、グループインタビューや質問紙調査によって各カテゴリーと軸の間の相関について調べてみたい。

【謝辞】

今回の質問紙調査にご協力いただいた長野県南部の公立保育園の保育者の皆様にこころより感謝いたします。また研究活動を支えてくださった短大の教職員の皆様、いつもそばにいて励ましてくれた家族にも心より感謝申し上げます。

【引用文献】

※1　共感（2006）　佐伯胖

※2「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」報告書（2010）国立青少年教育振興機構「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」報告書

※3　子育てハッピーアドバイス3（2006）　明橋大二

※4　対話と保育実践のフーガ（2009）加藤繁美

【参考文献】

大谷尚.(2007)「ステップコーディングによる質的データ分析手法」SCATの提案『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要（教育科学）

西条剛央.(2007)「ライブ講義　質的研究とは何か」新曜社

資料編
Ⅰ質問紙
アンケート

園名　　（記入は任意です）お名前　　（記入は任意です）

保育者としてのご経験は通算何年になりますか？　　年

1．担任のご経験のあるクラスに丸をつけてください。

0歳児　1歳児　2歳児　年少児　年中児　年長児　異年齢　加配

2．あなたにとってどのような体験が子どもにとっていい体験だと思いますか？自由に記述してください。

3．あなたは子どもにとってよくない体験とはどのようなものだと感じますか？自由に記述してください。

4．あなたは子どもがいい体験をしているということをどのようにして判断していますか？自由に記述してください。もし必要なら年中児を想定してお答えください。

5．あなた自身が保育者として成長したと感じたのはどのような時ですか、自由に記述してください。エピソードなどがあれば書いてください。

6．現在のお仕事について当てはまるものがあれば丸をつけてください。（いくつでも）

淡々とこなしている　頑張っている　疲れる　大変だ　楽しい　子どもがかわいい
子どもがかわいく思えないときがある　保護者との人間関係が大変だ　園の人間関係が大変だ
成長していると思う　停滞していると思う　未熟だと思う　経験が豊富だと思う　子どもに癒される
体力的にきつい　プレッシャーを感じる　待遇に不満がある　子どもの成長がうれしい
経験不足だと思う　いい仕事だと思う　辛い　ずっと続けたい　続けられるか不安　辞めたい
その他（　　）

7．この調査についてなにか感想やご要望があればどうぞ

9．「子どもの体験の評価」および「保育者としての成長」というテーマでインタビューを受けてくださる方を募集しています。プライバシーには十分に配慮いたします。インタビューを受けてもよい、という場合には
園名　お名前とご連絡先をご記入ください。

園名

お名前

ご連絡先（メールアドレス、お電話番号など）

長文のアンケートにご協力まことにありがとうございました。
同封の封筒にてご返送くだされば幸いです。

信州豊南短期大学　幼児教育学科　西川晶子